

# 選択実習報告書

6年 Bさん

1 実習科：救急医学科

2 コース名：ERでの救急初期対応の理解とその実際

3 本実習を希望した理由：

バイタルサインの勉強を学生最後の実習期間中にしておきたかったこと、ライン確保や採血等の将来絶対必要になるであろう手技をこの機会にきちんと学びたいと思っていたこと、そして救急講座ならこの要望に応じて下さるだろう思ったこと。また、5年次の救急講座のポリクリが一週間という短い期間であり自分の中で不完全燃焼に終わっていたこと等から総合的に考え、志望致しました。

4 実習内容：

実習開始直前には太田教授が個人面接で実習における自分の希望を聞いて下さり、その結果4週間の内、3週間は東京医科大学本院の救命センターの実習と途中1週間杏林大学の救命センターで実習をさせていただきました。本院ではグループに参加しながら病棟の患者さんについて学ばせて頂くと同時に三島先生による実技、ER実習、そしてデイリーレポートの報告しながら毎日学ばせて頂きました。杏林大学ではグループに参加しながら学ぶと同時に研修医の先生方と一緒にクルズスに参加させて頂きましたが、なによりERでの様々な急患を見学できました。

本院の救急講座では科全体で学生の質問やリクエストに全力で応えて下さり先生方の教育に対する熱意には驚きと同時に頭が下がる思いでした。特に実技の指導をして下さった三島先生、ありがとうございます！先生の流した血は決して無駄にせぬようがんばります。

また、ERでの処置は患者さんの予後に大きく影響するため実習の一ヶ月を通じて常に最大級の緊張感を感じました。この緊張感をこれからの医療へのモチベーションに変えていきたいと思えます。

5 本実習の満足度：

振り返ってみてこの一ヶ月は決して楽ではありませんでしたが、当初の目的であった手技やバイタルサインに関する知識も深まりました。が、何より終わってみて感じるのはどんな質問にも答えてもらえる貴重な期間だったということです。

救急講座の先生方、一ヶ月の間こんな自分の質問に答えて下さったり、そして見捨てずに叱って下さり本当にありがとうございました。